

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	T02
プログラム名称	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成		
プログラム責任者	森田 育男	プログラムコーディネーター	古川 はづき

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、異分野基礎教育の基盤力強化コースワーク、英語・教養・キャリア教育のグローバルリーダー力強化コースワーク、及び Project Based Team Study (PBTS) とグローバル研修のチーム力強化コースワークを3本の柱とする学位プログラムと優れた評価システムが構築され、基礎力とともに俯瞰力・課題解決力や国際性を有する学生が育成されていることは評価できる。本プログラムの開講科目を大学院共通科目とすることにより、「プロジェクトマネジメント特論」などの副専攻科目を、履修生以外の文系・理系の学生が延べ347名受講するなど大学院教育のグローバル化及び副専攻科目の学内への定着を図っている点は特筆に値する。プログラム担当者を含む自然科学系教員のおよそ67%が本プログラムの実施に関わることにより、当初計画を超えて優れた指導体制を構築したことは高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、学位プログラムの学びに対する学生の自己評価と教員の助言・評価のサイクルによる評価システムを通して、学生は主体的に汎用力、俯瞰力、課題解決力、語学力等を身に付け、多様な分野で活躍できるリーダーに育っており、平成31(2019)年4月時点の修了者は産業界(50%)、アカデミア(37.5%)、行政(12.5%)にバランスよく就職している点も、企業で即戦力として活躍する女性リーダー養成の成果として評価できる。また、チーム力強化を目標としたPBTSでは、スタディコモンズの外国人教員を中心とした担当教員の手厚い助言・指導により、分野の枠を超えた構成力、俯瞰力が養われている。PBTSの研究成果が企業との共同研究に発展するなど、当初計画を超えた高い水準の成果を生み出していることは特筆に値する。

事業の定着・発展については、本プログラムの核であるPBTSを文系の学生も履修可能な文理融合型に発展させるなど、ほぼ全てのカリキュラムを継続・発展させる取組は高く評価できる。学長と全学教育システム改革推進本部のリーダーシップの下で大学院教育改革に取り組み、現在、領域横断的な8つの副専攻において学際的・総合的・国際的な女性研究者の養成を強化している。本プログラムの優れた成果及び女子大学の特徴を生かして、博士課程進学者や本プログラムを継続・発展させたカリキュラムの履修者を一層増やし、女性グローバルリーダー育成を推進することが期待される。